

カキノヘタムシガに対する 新規交信かく乱剤「ヘタムシコン」

カキノヘタムシガは、幼虫が果実内部を食害し、落果させるカキの最重要害虫です。従来、本種の殺虫剤防除は困難とされてきました。それは、①幼虫は果実の内部にいるので、直接殺虫剤の影響を受けにくいこと、②防除適期の把握が難しいことがあげられます。そこで、本種の性フェロモンを利用した交信かく乱剤を開発しました。

☆ 技術の概要

1. カキノヘタムシガの新規交信かく乱剤「ヘタムシコン」を開発し、上市されました。本剤の形状は、性フェロモンを含んだポリエチレンチューブ(ディスペンサー)です(図1)。
2. ディスペンサーを、5月上旬に目通りの高さ(地上150cm程度)に10アールあたり90本設置するだけで、高い被害抑制効果が栽培期間終了まで持続します。設置は枝などに巻き付けるだけの軽作業なので、女性の方でも簡単にできます(図2)。
3. 現地の実証ほ場では、カキノヘタムシガ対象の殺虫剤を散布しなくても慣行防除区より被害果率を低く抑え、高い防除効果が確認できました(図3)。



図1 完成したヘタムシコン。パッケージの中には90本のディスペンサーが入っている(右)。



図2 ヘタムシコンの設置。設置作業(左)、枝に設置したヘタムシコンのディスペンサー(右)。

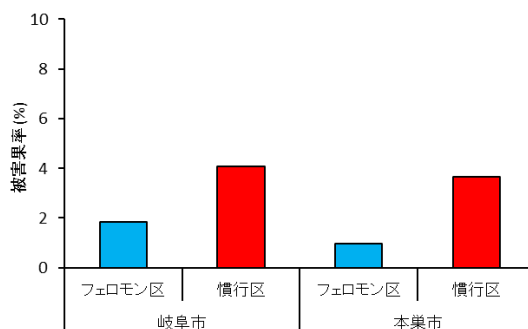


図3 ヘタムシコン設置区の被害果率(第1世代幼虫) フェロモン区にはヘタムシコンを90本/10a設置し、第1世代幼虫対象の殺虫剤散布(6月上旬)を行わなかった。慣行区では、地域慣行に基づき殺虫剤散布を行った。

☆ 活用面での留意点

1. 「ヘタムシコン」は、岐阜県農業技術センターが岐阜大学等と協力して開発し、信越化学工業株式会社から商品化されています(「ヘタムシコン」は信越化学工業株式会社の登録商標です)。
2. 各地区農林事務所などの協力もあり、販売初年度(H26年度)は、約70haのほ場で利用されました。
3. 詳細については、岐阜県農業技術センター(電話:058-239-3131、電子メール:c24401@pref.gifu.lg.jp)にお問い合わせください。
(果樹研究所 企画管理部 研究調整役 井原史雄)